

第5回マイクロジオデータ研究会議事録

2013年3月7日 15:00～17:00

東京大学本郷キャンパス工学部1号館15号室

<前半（文責：小川（秋山が加筆・修正））>

1. 「位置情報付きソーシャルデータの利用について～データから読み解く行動プロファイリング～」

株式会社ナイトレイ 高口大樹

NTT コミュニケーションズ 大木由紀子

質疑応答

傍聴：スポット分析の表記率は、注目度・話題度などの外的要因によるものか。

大木：ユーザー層と志向分析で出た重複クラスタが多いと表記率が高いといえる。クラスタの重複率が高いものをスポット分析の行動の結果として表している。

傍聴：滞在時間の取得は可能か。

大木：ナイトレイのデータにおいて、つぶやきやチェックイン情報が必要なのでそこまでは、とれていない。

2. 「クラウドサービスを活用した POI 情報の収集」

SCSK 株式会社 サービスイノベーション推進室 東田圭介

質疑応答

傍聴：調査時の問題について、調査する人が私有地に入る場合の問題はどう考えているか。また事故起こしたときの保障はどうなるのか。

東田：そのようなトラブルはある。また写真で撮ってはいけないものもある。撮影のルールをこちらで決めており、それらを理解した上でユーザーに調査を実施してもらっている。

傍聴：データ収集サイクルについて

東田：3人で同じ場所を調べてもらい、それを比較して問題が無ければ品質として良いものとしている。また Google の情報を使っても情報の信頼性検証している。ただし日本だから非常に調査内容の品質が高い。

傍聴：道路に関する情報は POI になるか。

東田：看板、道路標識や道路の細かい情報が POI になり、それをユーザーには、撮影してもらおう。

傍聴者：POI の利用について現状ではどのように考えているか。

東田：B to B になることを考えている。ガソリンスタンドの値段をまとめた情報をカーナビ屋に提供、不動産の値段をまとめて新たに事業を行う企業などに提供しようと考えている。

<後半（文責：羽田野（秋山が加筆・修正））>

3. 「ウェブから取得した店舗等の営業時間から見た商業集積地の賑わい変化の推定」

東京大学大学院新領域創成科学研究科 岡本裕紀

傍聴：業種別日変動のグラフについて。エリアによってどれくらい密度変化パターンが変わるのか。

岡本：六本木/新宿、自由が丘/渋谷同士は似ていることが分かっている。利用者の年齢構成に関連していそう。今後の課題として、さらに違う都市も見てみたい。

傍聴：店舗内の客数が分かれば、もっと面白いことができるのでは。例えば、満席で逃してしまった客数などが分かると思う。

岡本：席数を利用して行なおうとしているが、まだ難しい。

傍聴：一ヶ月くらいお店に協力してもらっても良さそうでは。

岡本：そうですね。

傍聴：どういう人達に活用してもらいたくて研究を始めたのか。

岡本：エリアマーケティング分野の人に活用していただきたいという気持ちから始めた。

4. 「屋内地図情報収集のための web クローリング」

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構 上山智士

傍聴：フロアマップを取ってきて、ポリゴンデータにして地図に貼る業務をしている。フロアマップ内の経路などを知りたいという要望もありうるが、それについての気づきなどはありますか。

上山：今のところ、画像を取ってくることしかしていない。この研究は、ポリゴン化のフェーズでの基礎データになるのではないかと考えている。

傍聴：ポリゴンデータに出来たら、面白そう。例えばより細かく店舗ごとなどにポリゴン化できないのか。

上山：傾きなどもあるので、難しいかもしれないが、やってみないと何とも言えない。